

## 1. 事業の目的

「桜は人で咲く」といわれているように人と深い関わりのある樹木です。しかし街を歩いていると、手入れ不足の可愛そうな桜をたくさん目にするがあります。日本人に人気のある桜ですが、人の手によって植えられた桜は普段から目を配りながら手入れをすることが大切です。私たちは、NPO法人兵庫県樹木医会の先生のご指導のもとで、播磨地域の皆さんと連携しながら「植えて終わり」ではなく「植えて育てる」を合言葉にして、小・中・高校生にもこの活動への参加を呼びかけ、桜の成長と共に播磨の発展に寄与することが出来る人材育てます。

右の写真は、姫路市手柄山中央公園で見つかった新種のフタエカスミザクラで、手柄山にちなんで「手柄ザクラ」として登録されました。



## 2. 活動の内容

### 1. 姫路城の桜の現状の調査と、その再生の取り組み

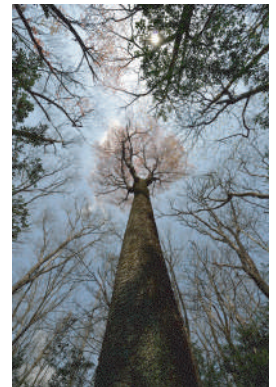
国宝であり、世界遺産にも登録されている姫路城は「桜の名所100選」にも選ばれています。しかし近年ではその桜が日ごとに樹勢の衰退を見せているのが現状です。私たちはこの一年、樹木医の先生の協力を得ながら病状の調査をしました。この活動を継続するために、手柄山中央公園一帯で「桜の育成の講習会」を定期的に開催し、桜や花を会する市民の皆さんや諸団体に呼びかけて姫路城の桜の再生に繋がる活動に進めていきます。



### 2. 播磨地域のヤマザクラの現状調査と、その再生の取り組み

ヤマザクラは個体変異が起こりやすい特徴を持っているので、同じ場所に自生していても花の色や開花時期が異なります。樹高は10メートルから25メートルほどまでに育ち、全体的に見れば開花期が長くなりますから桜の中でも花見を楽しみやすい品種に該当します。またヤマザクラは寿命の長い桜としても知られ、岡山県の尾所には樹齢500年を超える個体も存在します。このヤマザクラも周囲の樹木のお陰で枝を横に伸ばすことが出来ず、太陽の光りを求めて上へ上へと伸びているのが現状です。

私たちは山主さんの許可を得て、周囲の樹を伐採して枝を横に伸ばし、「植えなくて、育てるヤマザクラ」の活動に取り組みます。そしてヤマザクラを伐採せずに残していくようにして、将来にはヤマザクラも見事に咲き誇る播磨の山里になるように努めます。



### 3. 「第2回 はりま桜シンポジウム」の開催

昨年と一昨年に、このシンポジウムの開催を新型コロナ感染予防のために中止しました。そして今年度は、神崎郡神河町の2地区でソメイヨシノの樹勢回復事業を自治体や地域の皆さんと一緒に、NPO法人 兵庫県樹木医会の先生の指導で行いました。この活動を次年度以降も進めることで、その活動が神河町全体に広がっていく事を願っています。この「第2回 はりま桜シンポジウム」を、3月26日(土)13時~16時まで、神河町役場内にある中央公民館（グリンデルホール）で、NPO法人 兵庫県樹木医会の河合 浩彦理事長の「枝と根っこをバッサリ・・・！ 樹木医が語る桜の育て方」の基調講演や神河町での活動発表として「ソメイヨシノの樹勢回復に関わって感じたこと」を中心にして開催する予定です。



## 3. 成果や課題点

この活動を通じて「明石公園桜守の会」のメンバーとの交流に繋がり、連携体制を構築する事が出来ました。この連携を活かして姫路市手柄山中央公園でも桜の育成技術の習得のための講習会を、新型コロナ感染予防の万全の体制で開催したいと思っています。

## 4. 今後の展望、成果の活用

シンポジウムの開催やホームページを有効に活用して私たちの活動を広く告知し、まずは姫路城の桜の樹勢回復計画の資料をまとめ、姫路市・兵庫県文化財課を通じて文化庁に計画を提出して、この計画を調整したい。